

評価基準

基準 A: 課題作品についての知識と理解

- ・作品の内容について、どの程度理解しているか。

※作品の内容についてどの程度解釈し、作品の内包している主題やメッセージなどまで理解が及んでいるかを評価します。

評点	レベルの説明
0	以下の基準に達していない。
1～2	作品についての解釈、分析は非常に限られており、その内容を事実上まったく理解していない。
3～4	作品の内容について多少の解釈、分析と表面的な内容理解がある。
5～6	作品の内容とその解釈、分析について適切な知識と理解がある。
7～8	作品の内容とその解釈、分析の多くについて優れた知識と理解がある。
9～10	作品の内容とその解釈、分析の大半について非常に優れた知識と理解がある。

基準 B: プレゼンテーション

- ・プレゼンテーションの効果的かつ適切な方法についてどの程度の配慮がなされているか。

- ・聴衆の関心を引くためにどの程度の戦略（例えば、可聴性、アイコンタクト、ジェスチャー、資料の効果的な使い方など）が用いられているか。

評点	レベルの説明
0	以下の基準に達していない。
1～2	プレゼンテーションの方法が不適切で、聴衆の関心を引く試みが事実上まったくなされていない。
3～4	プレゼンテーションの方法がときどき適切であり、聴衆の関心を引く試みが若干なされている。
5～6	プレゼンテーションの方法は概して適切であり、聴衆の関心を引こうとする意欲が示されている。
7～8	プレゼンテーションの方法は一貫して適切であり、聴衆の関心を引くために適切な戦略が用いられている。
9～10	プレゼンテーションの方法は効果的であり、聴衆の関心を引くために非常に優れた戦略が用いられている。

基準 C: 言語の使用

- ・言葉遣いはどの程度明確で、多様で、正確であるか。
- ・語彙、語調、構成、専門用語、スタイル(文体)の選択はどの程度適切か。

評点	レベルの説明
0	以下の基準に達していない。
1～2	言葉遣いは不適切で、語彙、語調、構成、専門用語やスタイル(文体)をプレゼンテーションに適合する試みが事実上一切なされていない。
3～4	言葉遣いは一部適切だが、語彙、語調、構成、専門用語やスタイル(文体)をプレゼンテーションに適合させる意識が少ししか見られない。
5～6	言葉遣いの大半は適切であり、プレゼンテーションに適合した語彙、語調、構成、専門用語やスタイル(文体)への配慮がなされている。

※2015年版(新ガイド改訂前)のIA(プレゼンテーション)の評価基準を使用します。